

兵庫大生と加古川署が手作り

交通安全啓発へ 体当たりで動画

監督も
出演も
編集も

道路横断時の交通事故防止を目指し、兵庫大学(加古川市平岡町新家)と加古川署が協力し、約10分間の啓発動画を作った。学生たちが監督や出演者、編集まで担当。動画内では高齢者や園児役などを、体当たりで演じた。学生は「地域の交通安全に貢献したい」と力を込める。

(児玉美友)

防犯や防災の啓発活動に取り組む同大学の部活動「サプライズ企画部」の学

園児や高齢者役など熱演

生たちは、これまでも同署交通1課とタッグを組み、ポスターの作製や啓発イベントに取り組んできた。今回は、同課がポスター以外にも交通安全を呼びかける手段はないかと考え、学生に啓発動画の制作を依頼。

昨年10月ごろから部員21人が話し合い、動き始めた。動画は約10分。「斜め横断」「信号無視」など、6章で構成される。大学生が演じる園児や高齢者などが、車道を斜めに横断するなどの危険行為をして、本物の警察官が注意するとい



本物の警察官 危険行為を注意



交通安全を啓発する資料を作った兵庫大学の学生ら(兵庫大学)大学の学生と加古川署員が出演する交通安全啓発動画の一場面

物の警察官が注意するという内容。身近に潜む危険性を再確認してもらおうと、基本的な交通ルールの大切さを伝える。同署管内(加古川市、稲美、播磨町)の学校園での交通安全教室で使うほか、大型商業施設でも放送された。

このほか、「横断歩道・合図運動プラス実施中」と書かれたポスターも製作。歩行者と運転手がお互いに合図を送り合うことで、横断の意志を明確にする大切さを訴える。歩行者が大きく手を挙げて横断する写真などを複数枚使うことで、分かりやすさを追求したという。A2サイズの計100枚を、加古川市内の食品スーパーや公共施設で7月末まで掲示した。

ポスター作りを担当した生涯福祉学部4年の岡林楓さん(21)は「子どもからお年寄りまで、幅広い年代に分かりやすいよう工夫した」。同課の渡辺隆文警部補は「若い世代による呼びかけが、基本的な交通ルールの周知、再認識につながってほしい」と話した。